

令和5年度入学生用カリキュラムマップ

【臨床教育学研究科 臨床教育学専攻 修士課程】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性			
1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	4-1	4-2						
23MCEC1001	臨床教育学総論	1	日本の臨床教育学の開拓の試みは、1990年ごろから、新たに始まった。そうした臨床教育学の構想を、本学の臨床教育学研究科で蓄積されてきた研究・教育の努力と到達を踏まえながら、整理して提示する。	本講義の内容との関連で、臨床教育学のイメージを描き、自身の研究関心を明確にできている。	◎	◎								
23MCEC1002	臨床教育学総合演習	1	子ども・若者の生育の過程、親・保護者の暮らしと子育ての営み、福祉・医療・心理臨床・教育、労働・行政・法律などの諸領域ではたらく「発達援助専門職」の実践などについての具体的事例を検討し、心理学・福祉学・教育学の研究視点の独自性と共通性を理解し、それらを総合しようとしている臨床教育学のイメージを具体的に描けるようにする。	領域横断的なカンファレンスの体験を通して、臨床教育的な事例報告とその検討の仕方を獲得できている。					◎					
23MCEC1301	課題研究Ⅰ	1	受講生の関心領域に関する知見を文献研究によって広げる。文献は、書籍、雑誌を用い、扱った文献の理論的背景、方法などについて批判的に読み解く。このことを通じて自身の修士学位請求論文の問題意識を明確にする。	修士学位請求論文の問題部分に関する理論的枠組みを構築するため、受講者の問題意識を、理論的に整理し、他の研究者や学生に説明できる。						◎				
23MCEC2302	課題研究Ⅱ	2	各自の修士学位請求論文完成に向けての理論的検討と、関連諸領域の文献検討を通しての、具体的研究を実現する。	1. 課題研究Ⅰにおいて明確になった各自の問題意識を文章表現する。 2. 研究の方法を明確化する。 3. 中間発表等の機会を通じて、自身の問題を批判的に考察する。 4. 修士学位請求論文の完成。					◎					
23MCEC1003	実地研究	1	自身の専門領域と異なる実践現場を訪問し、異なる視点から各自の実践や研究活動を振り返る。	自分の専門領域と異なる実践現場の見学を通じて、研究の広がりを得られている。									◎	
23MCEC1004	調査研究計画	1	資料検索などを通じて各人の研究関心を明確にするとともに、研究目的の設定とそれに伴う研究計画の立て方を解説し、修士学位請求論文作成に向けて実践していく。	1. 自身の取り組むべき関心を見つけ、それを整理して説明できる。 2. 関心ある領域の先行研究を的確に検索できる。 3. 研究目的に応じた研究計画を立てられる。 4. 調査および論文作成上の決まり（論文構成、引用の仕方、参考文献や注の書き方、倫理的配慮など）を知る。 5. アンケート作成の手順を知る。 6. 簡単な統計結果の読み方や検定の仕方を知る。						◎				
23MCEC2005	教育調査・統計法	2	教育に関する調査・統計を行うための基本的な考え方を身につけるとともに、統計ソフトSPSSを使用しているデータの処理の仕方、および統計結果の読み方などについて学ぶ。	1. データの取り方、データの入力、確認の仕方を身につける。 2. SPSSを使用して、集計および基礎的検定の操作を覚え、その読み方、解釈の仕方を身につける。						◎				

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号												
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目												
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性						
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	4-1	4-2				
23MCEC1005	社会調査法	1	対人援助職は、基本的にクライアントとのコミュニケーションを通して、クライアントと共に、クライアントが直面する問題や課題の所在を探り、その解決を図ろうと試みる。この実践の特徴は質的調査に着手する上で強みとなるが、研究者として調査にあたる場合は質的研究の理解が求められている。本講義では質的研究パラダイムの理解、基本的な方法論の理解、また質的調査結果の普及に関する理解を深め、質的調査の視点を学ぶ。	1. 質的調査の研究パラダイムについて理解する。 2. 質的調査方法を体験する。 3. 質的調査結果の普及について現状を知る。 4. 量的調査と質的調査の違いについて理解する。			◎										
23MCEC1101	臨床教育学特論	1	対人援助専門職に必要とされる専門性を明らかにしつつ、その分野の専門性獲得に向けてどのような支援ができるかを検討する。その検討の上に、PBLの対話的事例シナリオを作成し、専門職養成、初任期の教育に資する試みを行う。	1. 対人援助専門職に必要とされる資質・能力を明らかにする。 2. PBL教育、および対話的事例シナリオについての知見（理念、方法、評価方法）を深める。 3. 対人援助専門職の他の分野との交流を経て、自らの分野の専門性の発達について見通しを得る。			◎			○						◎	
23MCEC2201	臨床教育学演習	2	臨床教育学の研究方法に関する知見を獲得することを支える。	人間の生存・発達とその援助に関する、「質的研究」の基本的な方法を理解する。	◎	◎											
23MCEC1102	生徒指導特論	1	生徒指導の実践から得られた知見をもとに、今日的課題（いじめ、非行、不登校、ひきこもりなど）の実相を把握し、教育的、心理的、社会的アプローチから検討を行い、課題に応える実践のあり方を考える。	1. 生徒指導実践事例を振り返り、当事者理解の概念と方法について理解する。 2. 教育や心理サービス、福祉援助実践における協同的対応の実態と課題を明らかにし、その取り組みの方途を考究する。							◎						
23MCEC2202	生徒指導演習	2	対人援助者の基本的な概念としてケアと自立を検討する。今日、困難な生活や育ちを抱える子どもや若者にかかわる教育・援助の場においてその専門性が求められている。育ちを支えることという基本に立ち返って個と集団を育てる生徒指導の専門性を考える。	1. ケアと自立の実践が育んできた生徒指導について検討する。 2. それぞれの援助実践の場、援助職の専門性などを考察しながら生徒指導の専門性について臨床教育の視点から理解する。								◎					
23MCEC1103	教育社会学特論	1	教育社会学の歴史や方法論についての理解を深めるとともに、教育実践など臨床の場に生かせる視点や調査方法を検討する。	1. 研究論文の講読、議論を通じて、批判的に文献を検討できる。 2. 方法論の特徴やメリット、デメリットを把握できる。 3. 現場での応用やその注意点について検討できる。 4. 研究内容をコンパクトにレジュメにまとめることができる。			◎	◎									
23MCEC2203	教育社会学演習	2	教育社会学関連の文献講読を通じて教育社会学の考え方や方法論を理解し、実際の調査データの検討を通じて、研究能力および実践に資する力を身につける。	1. 研究目的、研究対象から適切な研究方法を考えられる。 2. 結果の分析を念頭に、適切な研究計画が立てられる。 3. 調査結果の分析や解釈が適切に行える。			◎	◎									
23MCEC1104	教育問題特論	1	教育問題の問題の所在とそれらの関連性について一定の見識を持つと同時に、個々の問題（例「いじめ」「不登校」「学力問題」）について議論の論点を押さえ、自らの見解を持つ。	1. 教育問題の問題の所在（社会、地域、学校、保護者、子ども） 2. 「問題地図」と問題の関連性 3. 議論の論点と自らの見解の確立			◎	◎			◎						

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性			
1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	4-1	4-2						
23MCEC2144	臨床福祉学特論Ⅱ	2	ナラティブ・アプローチの理解は、多種多様な問題を抱えるマイノリティと呼ばれる人々の支援と研究を行う上で、包括的な視座の獲得に繋がる。本授業では、語ることと語られたものに着目するナラティブ実践と共に、ナラティブ分析を行う際の知識の基盤をつくる。	1. ナラティブとは何かを理解する。 2. 研究論文講読を通して、ナラティブを用いた実践と研究の例を学ぶ。 3. ナラティブ分析に取り組み、解釈と考察の方法を修得する。	◎		○						◎	○
23MCEC2145	教育福祉特論Ⅰ	1	現代日本の「貧困の実態」と国民が持つ「貧困観」を探索的に理解し、これらが人間の成長発達に及ぼす影響について考察を深める。	1. 現代日本の貧困は「隠された貧困」ともいわれ、正確な実態把握はできていない。さまざまな実態、データ、声等を拾い集めながら、貧困への関心を高める。 2. 貧困は個人の責任に帰される現象ではない。社会的要因、政策的要因、教育的要因などさまざまな社会構造と生活構造の元に発生するものであることについて理解を深める。 3. 貧困が人間の成長に及ぼす影響について、主として子どもとその養育・教育環境を中心に考察できるようにする。 4. 家族形態の変化と貧困の関連性について、「再生産」の視点で客観的な理解を深める。 5. 若年出産、養育困難、不適切な養育、虐待、不登校、就学意欲の喪失等の諸問題を1.～4.の視点から分析的に捉え直すことができるようにする。 6. 「貧困」を「経済的貧困」と「精神的貧困」に構成し直した「貧困の文化」について理解を深める。	◎	◎								
23MCEC2146	教育福祉特論Ⅱ	2	教育福祉的課題として注目が集まりつつある「多様性」の中でも、「性」に着目し、その現状を理解し、人々の生活への影響および支援のあり方について考察する。	1. 性にまつわる国内外の歴史を概観する。 2. 現代日本の性的少数者を取り巻く社会的、政策的、教育的影響について考察する。 3. 各自の専門領域における性に関する理解の実際を共有し、今後の支援のあり方を検討する。	◎			○					◎	◎